

平成22年度 赤穂市学校評価 外部評価報告書

学校名 赤穂市立尾崎小学校

1 本年度の学校経営方針

平成21年度末に実施した学校評価の結果、平成22年度の具体的な指針は、次の3点に絞られた。①基礎学力の定着と分かる授業の実現、②子どもとふれあう時間の確保、③家庭・地域と学校との連携。そこで、学校教育目標を「生きる力を育み、感性豊かに生きていこうとする子の育成」と設定し、子ども達が「勉強分かった 友だちできた 夢いっぱい尾崎小」と感じられる学校づくりに努める。とりわけ、本年度は中西播磨地区小学校社会科教育研究大会、教科担任制の導入が予定されていることから、これを機に指導方法の工夫と改善に努め、子ども達の学びの充実を図っていききたい。一方、子ども達一人一人が学校や学級を大切な居場所と感じられるよう、生徒指導並びに人権教育を充実させ、子どもと教師との良好な人間関係の元、活力ある学級経営づくりを推進していく。そのためには家庭地域との密なる連携は必要不可欠であり、昨年に引き続き開かれた学校を目指してその具現化にも努めていきたい。

2 本年度の学校重点目標

- 1) 確かな学力の定着と向上を目指す（教職員の資質の向上）
- 2) 自尊感情を育み、望ましい人間関係を築く（生徒指導の充実）
- 3) 家庭・地域の学校への信頼を高める（開かれた学校づくり）
- 4) 勤務時間の適正化を図る（効率的な学校運営）

【総合的な学校関係者評価】

本年度は、新学習指導要領移行期の新たな取組や高学年での教科担任制の導入、さらには社会科教育研究大会という大きな行事があったにもかかわらず、学校が子どもたちの教育に弛まぬ努力をしてきたことが、学校評価の中から見える。これは、家庭・地域の理解と協力のおかげでもあると考える。今後も学校・家庭・地域の連携を密にし、自信をもって教育活動に専念してほしい。こうした中、いくつかの課題もあり、真摯に受け止めその解決に努力してもらいたい。

<課題>

- 1) 来年度から新学習指導要領が完全実施されることもあり、教育内容も変わると聞いている。まず基礎学力の確実な定着を図ることを第一義とし、その上で探究心を培い、コミュニケーション能力を育む。
- 2) 教師と子どもとの良好な人間関係づくりを図りつつ、いじめ根絶に努める。
- 3) さらに多忙化すると予想される教育現場で、少しでもゆとりを生み出すために、業務改善の努力をする。

3 自己評価の結果

<達成状況の評価点> A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評価指標	目標値 (期待される姿等)			
重 点 目 標	教育課程の 編成	項目①教育活動は子どもの興味関心や負担等に配慮した内容を考え、適正に計画・運営できたか。 指標・教科の学習や学校行事等に意欲を持って生き生きと取り組んだ。	アンケート 児童の様子	B	運動会の6月実施は、必ずしも良とは言えない。6年生を始め子ども達にとって最大のイベントであり、体のできあがる2学期開催がベターだろう。音楽会のあり方も再考の余地がある。自然学校も含めて体験活動のあり方を見直す。
		項目②学校行事や体験活動を充実させ、感動する心や思いやりの心など豊かな心を育てる内容を編成したか。 指標・体験活動を通して、人・自然・社会との出会い、豊かな心が育っている。	アンケート 児童の様子		
点 目 標	基礎基本の 定着と授業 の改善	項目①各教科において、基礎基本を明確にし授業を進めたか。 指標・漢字力、計算力の向上のほか、社会科の基礎的・基本的事項の習得率が高められた。	アンケート テストほか	A	各担任が、漢字や計算の到達目標や習得率に数値目標を掲げ、その達成に向けて繰り返し学習等の工夫をしてきた結果、赤穂ドリルの正答率は85～90%を達成している。また社会科の研究を機に社会科の基本的事項（都道府県・県庁所在地や歴史上の人物等）の習得率も高まってきている。また、年度当初に全家庭を対象に家庭学習のあり方について啓発等を行い、その定着化を図ってきた。今後も家庭との協働作業で子どもの指導を進めていきたい。
		項目②基礎の時間としての補足的な学習の時間を確保するなど、指導法の工夫や改善を図ったか。 指標・「わくわく15」で計算の繰り返し学習に取り組ませ、正答率を高めた。	アンケート テストほか		
		項目③個に応じたきめ細かな指導を意識して推進してきたか。 指標・分かる喜びを感じると共に、自分の興味・関心を引き出し意欲的に学習に取り組んだ。	アンケート 授業研究等 自己評価 テストほか		
		項目④形成的評価や児童の自己評価等を基に、指導と評価の一体化に努めたか。 指標・学習の振り返りや繰り返し行うミニテスト等を通じて、理解を深めていった。	アンケート ノートほか		
		項目⑤家庭との連携を密にし、児童の学習習慣の確立に努めた。 指標・漢字、計算を家庭学習に位置付け、最低限の学習時間を確保した。			
1	活用力と問題 解決能力の育 成にかかる指 導方法の工夫	項目①体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れたか。 指標・常に課題意識をもち自分なりの方法で課題の解決に取り組もうとしてきた。	授業研究	A	社会科学習における探究学習のパターンを、全ての学年で徹底して指導した結果、子どもたちは社会科学習のおもしろさを実感し始めている。このことは、他の教科にも生かされつつあり、定着していききたい。
		項目②思考力や判断力を育むために、知識・技能を有効に生かそうとする学習活動の工夫をしたか。 指標・学習したことを文章や歌、絵などに表現したり、観察や見学の結果を論述したりできた。	授業研究		
	自己の思いを 表現する言語 力・表現力の 育成	項目①朝読書の時間において、そのねらいに沿った内容の充実を図ったか。 指標・朝読書に意欲的に参加し、学年に応じた内容の読書ができた。	児童の様子	B	朝読書は一日の日課として定着した。子どもは、選定の基準を自分なりに持っており、有意義な読書になっている。一方、表現力は十分ではなく、討論や議論にあまり積極的ではない。論理的思考を育てるための工夫をする。
		項目②見学や実験観察を基にレポートを作成したり討論会をしたりして、言語力や表現力を育てたか。 指標・実験観察の結果や考察をまとめ表現したり、自分の考えを伝え合ったりする力がついてきた。	授業研究 学習記録		
	教職員の研 究・研修と 意識の高揚	項目①研究主題に対応した校内研究体制を確立し、計画的に研究を実施したか。 指標・研究推進委員会、専門部会等は機能し、計画的に授業研究等の研究を深めることが出来たか。	研究記録	A	社会科教育研究大会を開催するにあたって、学校あげて組織的に研究と研修に取り組んできた。3年間にわたる研究の成果が、実践記録、当日の公開授業で実証されたことは、非常に意義深い。社会科の研究を通じて、教師の授業力が高められ、そして子ども達の社会的関心も高まったことは事実であり、大きな収穫だった。教職員の内部評価にもあるように、是非、その成果を他の教科指導や授業づくりに生かしていきたい。
		項目②研究推進内容は適切であった。 指標・人権教育、教科指導等の研究を深め、研究主題達成に努めた。	授業研究		
		項目③研究主題や年間計画について、確実に理解できていたか。 指標・各自が研究主題や年間計画を意識して、見通しを持って効果的に研究に取り組んだ。	授業研究 実践記録		
		項目④授業研究会を通じて、授業改善・指導力の向上が図れたか。 指標・研究主題に向かい、焦点化した授業研究を行い、自己の授業改善につなげることが出来た。	授業研究 実践記録		
		項目⑤研修の成果を、教育実践に生かしたか。 指標・命令研修、自主研修、校内研修等の成果を、自己の教育実践に生かした。	授業研究		

4 学校関係者の意見

課題と来年度の具体的な改善策

学校生活の満足度は、教職員と子ども・保護者との間に大差はなく概ね良好と言える。が、さらに一層の教育課程の工夫に努めてほしい。

分かりやすく楽しい授業づくりに努力していることを評価したい。ただ、もう少し工夫がほしいという意見もあるので、さらなる研究を望みたい。また、正答率だけで判断するのではなく、どれだけ定着しているのかをこまめにチェックし、学力の定着を図ってほしい。

学習の仕方が、社会科学習を通じて身に付いてきているようだ。さらに深化させ主体的な学習につなげてほしい。

朝読書がしっかり根を張っていることに感心する。ボランティアの協力の賜だ。ただ、発表時の声の小ささが気になる。もっと鍛えて欲しい。

社会科研究大会を通じて、子どもたちも社会科への関心が高まったように感じる。また地域学習を通じて、子どもたちの郷土愛が高まってきたようだ。引き続き、社会科の授業を充実させてほしい。

観点 (重点目標)		評価項目 (学校・教師の取組) 評価指標・目標値 (期待される姿等)		評価資料	達成状況	改善の方策	課題と来年度の具体的改善策
重点 点 目 標 2	よりよく生きる心を引き出す 道徳教育の充実	項目 指標	①児童の実態を踏まえ、魅力的な資料の活用や指導過程の工夫により、道徳の時間の充実を図ったか。 ・道徳の時間に、資料を通じてじっくりと考え、一人一人自分の心を見つめることができたか。	授業研究 学習記録	B	道徳学習は、手作りの資料や参加型の授業形態を取り入れた結果、子ども達が関心をもって学習に取り組んでいた。ただ、教師自身の経験等を生かした内容を工夫するなど、子どもの心にしみ入る授業づくりについて研究をしていきたい。	道徳資料は子ども達の生活実態に即したものになっているだろうか。時には保護者や地域の人たちに人生観や人間観等を語ってもらうような授業も必要だと思う。
		項目 指標	②道徳指導が児童の生活に生かされるよう実践化に努めてきたか。 ・学校や日常生活の様々な場面で、道徳で学んだことを意識して生活できている。	児童の様子			
		項目 指標	③学校の教育活動のあらゆる機会において、児童の自尊感情を高めるよう努めてきたか。 ・ほめられ認められることで、自分が好きだと感じている。	児童の様子 アンケート			
	自他の人権を尊重し、共に生きる心を培う 人権実践力の育成	項目 指標	①一人一人の人権を尊重し、全領域の中に位置付け推進してきたか。 ・学校が大好きで、毎日登校することを楽しみにしている。	児童の様子 アンケート	B	各学級担任は、子ども達と良好な人間関係づくりを築くため、授業の中で、日記指導の中で、あるいは遊びや行事の中でコミュニケーションを取ってきた。また、学級活動を基軸に、支え合う仲間づくりにも努め、教師と子ども、子どもと子どもが思いやりを持って生活している。しかし、いじめが起こったことは残念であり、生徒指導や人権教育を徹底し、いじめ根絶を目指したい。	児童理解を進めるため、相談しやすい環境を整えてほしい。そのためには、やはり先生にゆとりを回復することが大事だと思う。
		項目 指標	②児童の命と人権を守り、いじめや不登校問題を解決しようと努めたか。 ・友だちと仲良く学習したり遊んだりしており、安心して学校生活を送っている。	児童の様子 アンケート			
		項目 指標	③児童理解の方法を工夫し、児童をよりよく理解し、一人一人の実態に即した指導を行ったか。 ・安心して、何でも気軽に自分の思いを伝えたり、相談したり出来ている	アンケート			
		項目 指標	④教師自身、自らの人権感覚を高めるように努めたか。 ・先生の言葉や行動で、安心して学校生活が送れている。	アンケート 児童の様子			
		項目 指標	⑤家庭との連携を密にし、家庭・学校両面から、人権の実践力を育てよう努めているか。 ・家でも学校でも、思いやりをもってよりよく生きようとしている。	アンケート 児童の様子			
	たくましい 体づくり	項目 指標	①体育の時間や業間の時間などにおいて、児童の体力向上に努めたか。 ・体育の時間や体育的行事等を通して、運動の楽しさを感じながら体力をつけている。	診断テスト 児童の様子	A	早寝早起き朝ご飯の習慣は、概ね達成できている。体育学習等を通じて、運動における基本的なスキル(走る・投げる・跳ぶ)の向上を図りたい。	基礎体力と食習慣の関連は大きい。生活習慣をしっかり定着させてほしい。また、学校は体力づくりに、計画的・継続的に取り組んでほしい。
		項目 指標	②食育を充実させ、「早寝早起き朝ご飯」の習慣が定着できるよう指導しているか。 ・全児童が健康で規則正しい生活を送ることが出来ている。	児童の様子 アンケート			
	特別支援教育の充実	項目 指標	①児童の実態を十分に把握し、個別の指導計画を作成し、実施してきたか。 ・先生は、一人一人のことをよく見てくれ、しっかりと指導してくれていると感じている。	学習の記録 児童の様子	A	保護者や地域の啓発も進み、この教育に対して非常に協力的になってきた。これからは一人一人のニーズに応じた指導を進めるため、教材や教具を充実させていきたい。	これからも特別な指導を要する子どもの個性を伸ばすために、継続して努力してほしい。また、この教育の啓発活動にも努めてほしい。
		項目 指標	②特別な支援を要する児童への関わりを適切に行ったか。 ・分からないことや困ったことがあった時は、先生が適切に対応してくれたと感じている。	アンケート 学習の記録			
項目 指標		③他の児童が、特別な指導を要する児童に対して、適切な関わりが出来よう指導したか。 ・特別な指導を要する児童に、声をかけたり一緒に行動したりすることが自然に出来る。	児童の様子				
項目 指標		④保護者や地域の人々に、特別支援教育の理解を促したか。 ・家庭や地域で、特別な支援を要する人のことを正しく話したりすることができる。	アンケート				
開かれた 学校づくり	項目 指標	①学校の教育活動に関する情報を、地域や家庭に提供することが出来たか。 ・地域の人々や保護者は、学校の様子を分かりやすく伝えてくれていると感じている。	アンケート	B	学校だよりは、年間目標実行数は達成できなかったが、内容を充実させ、また全戸回覧することで啓発が図られた。学級だよりや学年だよりのほかにも、適宜各担任が工夫してプリント等で発信しており、啓発が進んでいると考える。地域の方のオープンスクールへの参加率を高めるため、広報に努めたい。	学校だよりの全戸回覧はよかった。内容も分かりやすく学校の様子がよく伝わってきた。オープンスクールも普段の様子がよく分かってよい。ただ、不審者対応に少し配慮が必要に思う。	
	項目 指標	②地域の教育力を生かし、住民参加の教育活動の推進を積極的に行ったか。 ・地域の人々は、支援ボランティアとして積極的に教育活動に参加してくれた。	内部評価				
	項目 指標	③保護者や地域の人々との連携を図る諸活動に参加できたか。 ・保護者等は、先生がふるさと祭りなどに積極的に参加していると感じている。	活用状況				
	項目 指標	④学級懇談会やオープンスクール等を、連携を深めるために有効に活用することが出来た。 ・保護者等は気軽に学校を訪れたり、子どものことで相談したりしやすいと感じている。	アンケート				
勤務時間の 適正化	項目 指標	①勤務時間の適正化を進めるため、推進委員会を立ち上げ職員の意識高揚を図ったか。 ・職員は、ノー残業デーを積極的に活用した。	内部評価	B	職員の勤務は、授業準備・教材研究のほか事務処理や来校者の対応等と多岐にわたり、多忙をきわめている。来年度は、「勤務時間の適正化」を重要課題に掲げ、改善に努めたい。	毎日のように遅くまで職員室の電気がついているのを見て、学校が一生懸命に働いていると頭の下がる思いだ。でも、健康が一番であり、少しでも軽減できるよう業務改善に努めてほしい。	
	項目 指標	②効率的な校務処理を図るため、チームワークによる協働作業に努めてきたか。 ・複数配置された校務分掌では、必ず分担・協力して処理した。	内部評価				
	項目 指標	③会議や会合等の縮減や、行事の精選・スリム化・適正化に努めたか。 ・運動会や音楽会が華美にならないように気を付け、準備や練習のスリム化を図った。	教育計画				
安心安全の 取組	項目 指標	①不審者対応等、児童の安全確保について努めたか。 ・子どもや保護者は、不審者対応に努力していると感じている。	アンケート	A	大きな事件・事故もなく概ねルールを守って生活出来ていた。ただ、自分から身を守るという姿勢は必ずしも十分とは言えない。防犯教室や交通安全教室等、安全教育のあり方を見直したい。	地域の方たちの努力を評価したい。さらに、子ども自身の安全意識を高めるための指導の徹底を望む。	
	項目 指標	②安全教育(防災、防犯、交通、保健等)を計画的に行ったか。 ・交通安全教室や避難訓練等の実施により、子どもの安全意識が高まっている。	児童の様子				

◆自己評価における特記事項

特記事項なし

◆項目以外での来年度の課題や具体的改善方法

特記事項なし